

学校教育目標	○ やさしく(徳) ○ 強く(体) ○ よく考え(知) 手をつなぐ拝島の子	【目指す学校像】	○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)
		【目指す児童・生徒像】	○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
		【目指す教師像】	○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、定量的に評価する学習展開の工夫 ・どの児童も参加しやすい問口の広い導入の工夫 ・教科横断的、問題解決的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   92%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	児童は、自身がおおむね進んで学習に取り組んでいると感じている。教員は、授業改善に前向きに取り組んでいるが、児童の学力向上が不十分に感じているところがある。子供の意欲の高まりを活かし、今後も具体的な授業改善案を考え、取り組んでいく必要がある。	B	次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのために、ねらいの明確な学習、振り返りを確実にし、指導と評価の一体化を目指す。また、授業改善プランの作成と実施を具体的なものとし、成果を明らかにする。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   82%~92%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   72%~82%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答							
豊かな心	自分も仲間も大切に、お互いのよさを認め合い、相手を思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己の生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成	・よさを認め、互いに必要とされる実感ももてる学級経営 ・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に関連付けた指導	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   92%以上の児童が大切さを学ぶことができた回答	4	児童は、おおむね自分も友達も大切にしていると感じている。教師も、道徳の学習の質の向上を目指し、研鑽に励んでいる。ただ、日常生活の中で、友達とのトラブルは起こることも多く、ケースに応じて素早く対応しているが、学校生活の様々な場面で、引き続き子供たちの心を思いやる心を醸成する必要がある。	B	児童同士が、お互いのよさに気づき取り組み、共に活動することを通してよさに気づく機会を意図的に計画し、仲間意識を高め、大切な存在であると感じられるよう、ねばり強く指導を続けていく。また、自身の想いを素直に表現できる環境を整えていく。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   82%~92%未満の児童が大切さを学ぶことができた回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   72%~82%未満の児童が大切さを学ぶことができた回答							
健やかな体	健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しようとする心身ともに健康でたくましい児童の育成を目指す。	一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む児童の育成	・人権教育プログラムの活用 ・生活指導夕会での情報共有と素早い対応、報道の徹底 ・いじめアンケートの確実な実施と日常からの未然防止と早期対応 ・ふれあい月間の取組	4   4項目全て取り組むことができた。	4	4   92%以上の児童が判断できた回答	4	児童は、おおむね善悪の判断を付けることができ、いじめはイヤだと感じている。しかし、2割の児童は自信をもてていないことが分かった。教師も人権について細心の注意を回して児童と接している。今後も、善悪の判断、いじめはイヤだと感じられない児童の指導について検討していく必要がある。	B	善悪の判断に自信のない児童や、いじめを止めることのできない児童の心構えに寄り添うためにも、日常から人権について考えさせ、誰もが不当に嫌な思いをしにくい環境を目指す。また、SNSの不適切な利用を防ぐためにも、年間計画にリテラシーの時間を十分に設ける。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   82%~92%未満の児童が判断できた回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   72%~82%未満の児童が判断できた回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	学級会活動をはじめ、全教育活動における、キャリア教育の充実	・ゲストティーチャーによる学び ・実践、体験活動の充実 ・栽培体験活動の実施 ・縦割り班活動の充実	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	4	児童はおおむね人との関わりや自然体験に満足していることがわかる。教師も縦割り班活動やゲストティーチャーによる指導に積極的に取り組んでいる。本年度は3年生で自治会の方と交流する機会をもつことができた。今後も、地域の方やゲストティーチャーと交流する場を増やし、人のかかわりの中で学ぶ本物体験を進めていきたい。	B	縦割り班活動をさらに充実した内容にするため、各学年の役割等も決めたが、リーダーとしてのふるまいや、協力して取り組む楽しさを味わわせたい。また、自然や文化についての学びを外部講師を通して学ぶ機会を増やしていきたい。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   80%~90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   70%~80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成	・グッドモーニング60分の取組 ・ノーマディア習慣の取組 ・安全、防災教育の確実な実施とふりかえりの重視 ・チャレンジ精神、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   90%以上の児童が安全健康についていかすと回答	3	児童は、基本的な生活習慣がしっかりと付いていることと、SNSやYouTubeに多くの時間を使っていることがわかった。教師も、グッドモーニング60分やノーマディア週間の取組を行っているが、十分な効果が上がっていない。今後、保健学習の充実や、児童が実感できる指導の工夫、保護者への協力を求める工夫が必要である。	C	グッドモーニング60分の効果を高めるため、3年生の保健学習に養護教諭が参加したり、ノーマディアの効果を高めるために、代表委員会や保健委員会の活動を工夫したりして取り組ませたい。何よりも、自分たちの時間の管理ができるよう、日常的に指導を行う。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組	・めあてが明確な学習の展開 ・元気アップガイドブックを活用した、体力運動能力調査の分析と、具体的な取り組みの推進 ・体育朝会の取組と授業での活用 ・ミニ研修会の実施と活用	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   90%以上の児童が体力付いていると回答	3	児童は、おおむね運動にすすんで取り組んでいると感じている。教師も、元気アップガイドブックの活用場面を設定したり、挿入小ヒックの取組を活性化させ、縦割り班での運動遊びの場を設けたりすることができた。しかし、15%程度の児童が不十分に感じていることから、今後も苦学意識をもつ児童の意識改革に取り組んでいく必要がある。	B	体力調査の結果を基に、自身の体力について考える元気アップガイドブックの活用をさらに工夫していきたい。また、運動の日常化につなげる校庭の利用について、アイデアを出し合い、場の設定などを工夫したい。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   80%~90%未満の児童が体力付いていると回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   70%~80%未満の児童が体力付いていると回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討及び実践	・お弁当の日から自ら考え取り組む ・保健指導から、自分の体についての学び ・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   90%以上の児童がお弁当の日工夫できた回答	3	児童は、おおむね食に関する学びを生活に活かしていると感じている。教師も給食指導や保健指導を通して職や健康についての指導に力を注いでいる。お弁当の日に関しては、保護者の協力もありうまくいっているが、家庭によっては子供との交流が難しい場合もあるため、給食課とも連携して、食育指導を進めていく必要がある。	B	安全指導の年間計画を適切に実施すること、また、避難訓練や防災訓練を通して、自らの行動を考える機会を創出し、自ら考え行動できる力を養えるよう工夫したい。さらに、保健指導や保健学習を通して、自身の健康や性的安全について考える機会を適切にもちたい。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   80%~90%未満の児童がお弁当の日工夫できた回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   70%~80%未満の児童がお弁当の日工夫できた回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	地域とのかかわり、ICT活用した世界とのかかわりを意識し、持続可能な社会づくりを意識した取組	・学校生活への適応 ・仲間づくり、集団の結束 ・自らの役割の自覚 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアアルバム活用)	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   92%以上の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答	3	児童はおおむね自分の生活を振り返り、よりよくしようと努力していることがわかる。教師も仲間づくりや集団作りの工夫を行い、学級活動において自分の役割を意識させ、学級の仲間と課題の解決に取り組むことができた。今後も、キャリアアルバムを通して自己を見つめ、よりよく生活していく意欲を高める工夫が必要である。	B	自分自身をよくしたいと考える児童が大変多いという結果は素晴らしい。それこそが「輝く未来」の源であると感じた。その思いを勇気づける指導を高めていきたいという教師の熱意に期待する。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   82%~92%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   72%~82%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討及び実践	・スタートカリキュラムの理解と推進 ・年3回の中学校区計画的な交流活動 ・小中連携の具体的な方策の検討・実践 ・幼・保との連携、交流活動	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   90%以上の児童が自分の得意なことを考えたと回答	2	自分の得意なこと、向いていることを見付けられないと回答した児童が21%程度いることが分かった。教師の取組は、スタートカリキュラムの実践、幼保の連携に積極的に取り組んだ。小中連携については、特別支援教育をテーマに今後も話し合いを進めていく予定である。子供たちが自分に自信をもてるよう全教育活動を通して働きかけていきたい。	C	得意なことを言うように、環境や声かけの工夫していただけたらいいと思う。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   80%~90%未満の児童が自分の得意なことを考えたと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   70%~80%未満の児童が自分の得意なことを考えたと回答							
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようとする児童の育成を目指す。	地域とのかかわり、ICT活用した世界とのかかわりを意識し、持続可能な社会づくりを意識した取組	・地域人材や環境を活用した学習 ・タブレット端末の積極的な活用 ・SNS家庭ルールの普及と、情報モラル教育の充実 ・環境をはじめとするSDG'sを意識した活動	4   4項目全て取り組むことができた。	3	4   92%以上の児童が地域の方とのふれあいできたと回答	4	児童は、地域や社会との触れ合う活動についておおむねよくできたと感じている。教師も地域人材やゲストティーチャーを招聘する活動に積極的に取り組んだ。タブレットの活用も日常的になってきているが、教師の得意不得意もあるため、引き続き研修を通して有用性を学んでいきたい。	A	外部の方との交流を通して、本物の職業人のお話を聞く機会の提供が素晴らしい。外部の力を使うことは大変よい取組だと思ふ。	
			3   3項目は取り組むことができた。	3   82%~92%未満の児童が地域の方とのふれあいできたと回答							
			2   2項目は取り組むことができた。	2   72%~82%未満の児童が地域の方とのふれあいできたと回答							